

I 研究テーマ

「子どもたち一人一人のよさや可能性を生かすための支援のあり方」

II 研究テーマ設定の理由

図工とは、子どもたち一人一人が自分の思いや願いを実現することができる教科である。単に教師から教えられた技術・技法を身につけるのではなく、心豊かに、主体的に判断しながら表現活動をしていくことを通し自分らしさを発揮する。そんな図工にしていくために、画一的な学習活動や指導に偏ることなく、一人一人の子どもたちに自分自身を見つめさせること、身の回りにあるおもしろさを発見させること、表現力や創造性を伸ばすことを大切にしながら、「個に応じた指導や学習はどうあるべきか」「発達段階に適した題材をどのように教材化し、どのように提示していくか。」「子どもたちが種々の創作活動をするときに、どのような材料が効果的か」「評価はどうあるべきか」「評価が子どもたちにとって目的（指標）になり得るものか」といったことについての研究を深めていくことが重要になってくる。

学力偏重の考えの中で、図工に対し厳しい見方もあるが、子どもたちが自分の思いや願いを表現していく上でとても大切な教科であることを鑑み、さらに研究を深めていくことを目指し、本テーマを設定している。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

- | | | |
|-------|---------|---|
| 【第1回】 | 4 / 1 1 | ・部会総会（役員・テーマの決定，部会員構成）
・小学校部会（小学校部会役員・テーマ，研究内容の確認） |
| 【第2回】 | 5 / 1 4 | ・第48次春季全体集会
・小学校部会（基調提案・運営方針について）
・ブロック別討議（年間計画ほか） |
| 【第3回】 | 6 / 1 8 | ・中学校部会との共同研究（鷹野先生の講演） |
| 【第4回】 | 7 / 3 1 | ・第48次夏季全体集会
【午前】ブロック別（ブロックの年間計画による活動）
【午後】全体集会（アイメッセ） |
| 【第5回】 | 8 / 1 6 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第6回】 | 9 / 3 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第7回】 | 10 / 1 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第8回】 | 11 / 5 | ・ブロック別（ブロックの年間計画による活動） |
| 【第9回】 | 1 / 2 1 | ・小学校部会（年間活動の反省と課題，会計報告，県教研還流報告など） |

2 研究内容

小学校造形研究部会は、本年度28名の部員が、「低学年ブロック」（14名）と「高学年ブロック」（14名）という2ブロック体制で研究を推進した。

（1）低学年ブロックの研究

①研究過程と内容

- 6 / 18 本年度の研究の方向性の確認
- 7 / 31 4観点や指導案の形式等の確認授業研究
- 8 / 16 紙粘土を使った教材研究
- 9 / 3 実践発表
- 10 / 2 実践発表
- 11 / 5 実践発表

②研究の成果と課題

平成26年10月30日（木）～31日（金）に、県教育委員会、県市町村教育委員会、連合会等との共催で「全国・関東ブロック造形教育研究大会」が開催される。甲教協の部会も組織として協力していく方針を確認しながら、現在行われている図画工作の授業における課題の洗い出しと、授業改善に向けての方向性、また、具体的な方策についての研究を進めてきた。

具体的な内容としては、小学校の図画工作科で身につけさせたい力を、日常の授業の中で児童にわかりやすく提示することを取り組みの一つとして取り上げ、提示するカードの具体的な利用方法と活用法について意見交換を行う中、いくつかの指導事例を紹介、検証していくことが活動の中心となった。また、来年度の県教研のレポート実践について本年度のうちに見通しをたてて取り組めるよう、確認を行った。

（2）高学年ブロック

①研究経過と内容

- 6 / 18 学習会 講師「高野晃先生」[美術館]
- 7 / 31 指導案検討会 [東小]
- 8 / 16 参考指導案の読み合わせと試作 [東小]
- 9 / 3 指導案検討と実践作品鑑賞 [東小]
- 10 / 1 実践授業報告及び実習 [東小]
- 11 / 5 指導案検討会 [東小]

②研究内容と成果・課題

高学年ブロックでは、造形教育研究会の研究テーマに沿った授業を起こすため、また来年度の山造研の関東ブロック公開研究会の参考指導案を研究するために、部員がそれぞれ指導案を持ち寄り話し合いを行った。高学年の図工の学習は交換授業となることがある。そのため学級担任が担当する場合より、学級指導を生かしたり、臨機応変な対応をしたり

することが難しい。そんな課題のある中でも様々なアイデアの指導案が集まった。今年度は授業づくりの提案が中心であったため、実践授業での子どもたちの作品を持ち寄る機会が持てなかった。作品からテーマの与え方や子どもたちの発想をどのように引き出すか等について話し合うことができず残念であった。今年度の指導案を土台にして来年度は授業を実践し、子どもたちのよさや可能性を引き出す等の手立てについて研究したい。

3 教育祭図工・美術作品展の成果と課題

(1) 成 果

例年のことではあるが、各校行事等で忙しい中、それぞれの学校が「思いをひろげて」のテーマの中で各学年の教育課程に合わせながら取り組みが行われ、子どもたちの思いを大切にしながら、先生方が指導の工夫をされていることが本年度も十分感じられる作品展になった。展示会準備後に行われた学習会に、本年度は鷹野晃先生（須玉中教頭）を新しく講師にお招きし、甲府支部の作品の傾向や指導上のポイントなどについて、資料と映像を提示していただきながら解説・ご指導をいただいた。図画工作科のねらいにもとづいた授業のあり方について、具体的な事例を挙げていただきながらの専門的なお話を聞くことができた。参加した先生方からも大変貴重な機会だったという感想が多く聞かれ、これまでの指導法をもう一度考えなおすための有意義な学習会となった。

(2) 課 題

この大会が1年に1回の図工的な行事であることの意義をとらえ、この機会に全校共通理解のもと学ぼうという姿勢で取り組むことが大切だと言える。これからも、ただ技術を高めるのではなく、子どもたちに自分の思いを表現する喜びを味わわせることができる図工教育を目指していきたい。

IV 研究の反省と課題

今年度も、「低・高学年」の二つのブロックに分かれ、それぞれのブロックに指導的立場の先生に所属してもらい、研究活動を続けてきた。

来年度、本県で全国・関ブロ造形教育研究会が開かれることになっている。それに向け、甲府からも授業提案をしなければならないという可能性があり、指導案中心の研究を行ってきた。様々な指導案が提案され、どのような授業を、どのように作ることが大切か考えることができ、成果を上げることができた。子どもたちの作品を持ち寄って実際に見ながら検討するという機会をあまり持てなかったのは残念だが、今年度提案されたものをもとに、さらに研究を深め、子どもたちが自分の思いを十分に発揮できるような授業作りを心がけていきたい。